

平成30（2018）年度 豊川いのち・愛・ゆめセンター事業概要



やよいまつりの様子

センターの名前の由来

いのち…人が生きる根底にある最も大切なもの
愛……人を思いやる人間愛
ゆめ……多くの人との交流を図り、あらゆる人権問題の解決に向けた願い
センターの名前には、このような思いがこめられています。

令和元年（2019年）8月

茨木市 市民文化部 人権・男女共生課

次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

1 センターの概要

(1) 設置目的

基本的人権尊重の精神に基づき、社会福祉法（昭和26年法律第45条）に規定する隣保館として、地域住民の福祉の向上をめざし、市民に対する人権啓発を推進し、すべての人権問題の解決を図り、人権が尊重される社会の実現に資すること。

(2) 施設の概要

【本館】鉄筋コンクリート造3階建（一部4階）

敷地面積1,616.28㎡ 延床面積1,828.03㎡ 昭和47年4月1日開館

【分館】鉄筋コンクリート造2階建

敷地面積1,432.51㎡ 延床面積877.94㎡ 昭和54年4月21日開館（道祖本青少年会館）

体育室 鉄骨造平屋建

敷地面積1,270.11㎡ 延床面積708.40㎡ 昭和63年4月30日開館

(3) 運営体制等 館長、指導職員、総合相談員2人、臨時職員3人 計7人（平成30年4月1日現在）
事業運営等について、センター運営委員会から意見徴取

(4) 利用案内

開館時間 午前9:00～午後9:30まで

休館日 日曜日、祝日、年末年始（12月28日～1月4日）

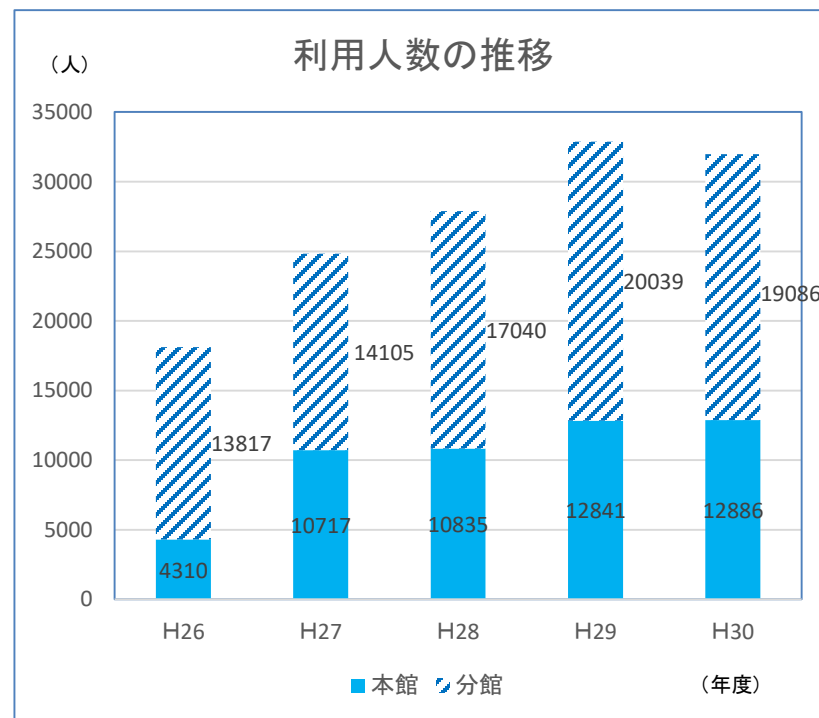
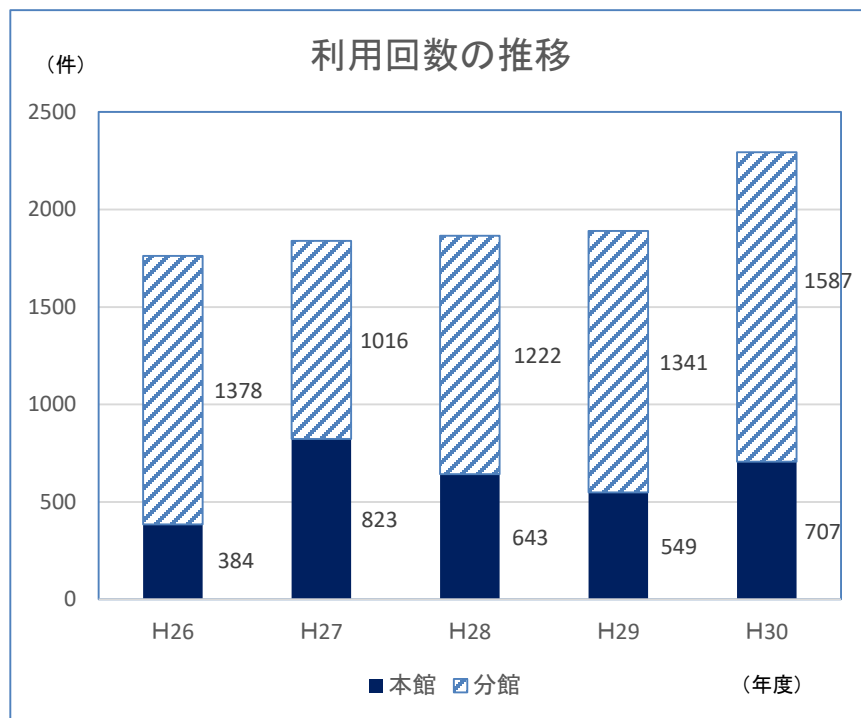
茨木市に暴風警報及び大雨特別警報発令時、震度5弱以上の地震発生時等

利用受付等

- ・利用申込みは、利用しようとする日の属する月の1月前の月の初日から
- ・高校生以下の団体利用は、利用料が半額になる場合があります。
- ・市外居住者の利用料は、2倍になります。
- ・利用開始日の30日前までに利用申請を取り消したときは、利用料の全額を還付、3日前までに取り消したときは、利用料の5割を還付します。



(5) 利用状況等








(利用回数・利用人数とも、分館におけるコースプラザの利用も含む。)

2 地域交流事業

地域住民相互の理解と交流の促進を目的に、委託事業（社会福祉法人とよかわ福祉会が受託）として実施しています。

(1) 地域交流行事・講座

事業名	第17回豊川やよい祭り	ふれあい委員会との交流	豊川多世代交流ポッチャ
日時	H31.3.2（土）・3（日）	①H30.5.7(月) ②H31.2.27（水）	①H30.7.14(土) ②H31.1.26（土）
内容	映画会・こども食堂、センター利用団体の発表・模擬店での飲食物等の提供 参加 延べ680人	豊川小学校ふれあい委員会が小学校区の施設などを見学し、交流して豊川地区を知ることとを目的としてあいセンターでも年2回交流を行うもの 参加 27人	お昼ご飯を一緒に食べて、ポッチャをして交流。相談者と相談を受ける方々との顔を合わせる機会を増やすことを目的として、豊川小学校区見守り支援ネットワークの枠組みで実施 参加 ①35人②30人
講座の様子等	 <p>・「被災した方たちの思いを知らせ少しでも防災の意識を高めることに繋がりたい」との思いで、『みんなのさくら』をつくり、参加してくれた方々から一言を書いてもらった。 ・茨木出身のマジシャン亜空亜SHINさんのマジックショー</p>	 <p>①ふれあいクイズラリーと、地域の文化の一つ 盆踊りの一曲「河内音頭」を覚えてもらおうと、教えながら一緒に踊った。 ②やよい祭り盛り上げようプロジェクトと題して、地域の高齢者の方がと一緒に祭りの飾りつけを行う。</p>	 <p>・くじ引きでチームを決め、子どもと大人が一緒のグループで知り合いになれて和気あいあいの雰囲気だった。 ・大阪北部地震で豊川市営住宅に避難されている被災者の方々にも、声かけを行い、うち2名が参加され、楽しかったと喜んでいただいた。</p> <p style="text-align: center;">3</p>

事業名	世界のカレーを作って食べよう！	夏休み！早く宿題をやっつけていっぱい遊ぼう作戦週間	ご飯を食べて手話を学ぼう！
日時	H30.7.21(土)	H30.7.23(月)～27(金)	①H30.8.20(月)～23(木) ②H30.12.25(火)～27(木)
内容	<p>参加者全員で、好きなカレーを選び、その人たちで力を合わせてグリーンカレー・ひよこ豆カレー・夏野菜(ハラール)カレー・甘口カレーを作り、みんなで食べた。 参加 20人</p>	<p>地域の小学生・中学生を対象に、夏休みの宿題中心の勉強会を開催。参加した子達とスタッフの交流を深めるため、フードバンクの食材を利用し、お昼ご飯を提供。 講師 大阪大学人間科学部院生、ユースプラザ職員ほか 参加 57人</p>	<p>手話を学ぶ。手話の先生と一緒に昼食を食べ、手話を交えて楽しく交流する。 講師 茨木市聴力障害者協会 参加 ①6人②11人</p>
講座の様子等	 <p>(参加者の主な感想) ・子ども(5才)と参加しましたが、とても楽しめました。同じカレーを作った人達もとても優しく声をかけていただけだったので本当に助かりました。 ・今までハラールという言葉しか知らず実際のハラール用お肉とか初めて見ました。</p>	 <p>勉強してから遊ぶ、ごはんを食べてから遊ぶ、という気持ちの切り替えや集中できるよう工夫した。 ほとんどの参加者は、9時～10時半くらいまでの間にその日分の宿題を終え、お昼ご飯までの間、講師たちと遊べた。</p>	 <p>(参加者の主な感想) ・ごはんおいしかった。 ・手話がたくさんあって楽しかった！ ・三日間はすくない！！ぜひ春休みもやってください。たのしみにしています。 ・自分の名前を手話でできるようになったので、うれしかったです。</p>

(2) その他講習・講座等

事業名	人権講座「自分のセクシュアリティについて、知ろう・考えよう！」	スマホ活用講座 LINEの使い方(初心者向け)	初心者のためのパワーポイント
日時	H30.11.2(金)	H30.10.13(土)	H30.11.10(土)・17(土)・24(土)
内容	セクシュアリティとは、人間が一人ひとり持っている性のあり様のこと。人が生活していくうえであらゆる場面で関わってくる中心的な側面。 講師 QWRC所属 井元哲也氏 六色かや子氏 参加 30人(相談業務従事者対象)	いまさら聞けない! スマホの使い方。無料で使える便利なアプリの使い方を知る。パソコンより、スマホの便利な使い方を学びたい。という希望に応えるかたちで実施。 講師 浅野 加奈 氏 参加 6人	パワーポイントの基礎的な使い方を学ぶ。 チラシを作成できるようになることを一つの目標とした。 講師 浅野 加奈 氏 参加 7人
講座の様子等	(参加者の感想) ・知らなかった言葉が意味と共に行なうことができた。性別がどうかではなくみんな同じ人間。男・女・高齢者・幼児など1人の人間として尊重する事 ・いろんな場面でLGBTについての相談があった場合、どういうふう言葉にかけたらいいのか、答えを求められるとどうすればいいのかすごく悩んだりしています。 ・みんなが「自分は普通」と思って安心しているが、自分はみんなと違うし、みんなそれぞれが他の誰とも違うと思えるようになると、良い社会になるのだと思う ・昔なにげなく思っていたことが差別用語であったことがわかりました	・初心者対象だったので、ゆっくりペースで行なった。 ・自分のスマホを持ってきてもらい実施した。 ・即、使うことができると喜ばれた。 ・自宅にパソコンのない人は多いが、スマホは持っている人が多い。しかし便利だろうけど、使い方の良くわからない方にはうってつけの講座だったと喜んでもらった。	(参加者の感想) ・パワーポイントの操作は初めてなので、とまどいがあり、時間を長くしてほしい。 ・とても良かったです。丁寧に教えて下さったので、わかりやすかったです。身についたと思います。使いこなしてさらに身につけたいと思いました。 ・パソコンそのものに不慣れなこともあったのですが、先生方のご丁寧なご指導に感謝します。 ・チラシが一瞬で作れることが知れてとても役立ちました。 ・とても楽しく、理解できました。

3 豊川いのち・愛・ゆめセンターでの識字・日本語教室の取り組み 3学期制・全28回

毎週火曜日 午後7時30分～午後9時

受講生 28人 日本 14人 フィリピン 1人 ミャンマー 1人
インドネシア 1人 中国 3人 マレーシア 1人
ベトナム 6人 ボリビア 1人

講師 42人

主な年間行事 10月28日 よみかきこうりゅうかい(大阪府教育センター)
11月27日・12月4日 年賀状作り
12月11日 クリスマス会
2月5日 防災講座

※ 識字・日本語教室とは

識字・日本語教室は、文字の「読み」「書き」を学び、日本の「ことば」を学ぶことです。「すべての人に文字を」と国際連合が呼びかけた1990年の国際識字年、その後「国際識字の10年」が呼びかけられ、世界でその取組が進められてきました。

大阪でも、およそ5～6万人の方が「よみ・かき・ことば」に不自由していることで、夜間中学校、識字学級、公民館等での日本語教室のほか、ボランティアによる日本語教室など、200か所以上が開設されています。そこでは、戦争や差別、貧困などの理由で学校に行けなかった人々や最近外国から日本に来られた方など、5,000人以上が学んでいます。



次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

4 相談事業等

(1) 相談事業の概要

日常相談業務及び休日、夜間相談

日常的な相談業務について、相談担当者を配置し、あいセンターをはじめ、地域の関係機関、民生委員、福祉委員等と連携して行ってきました。

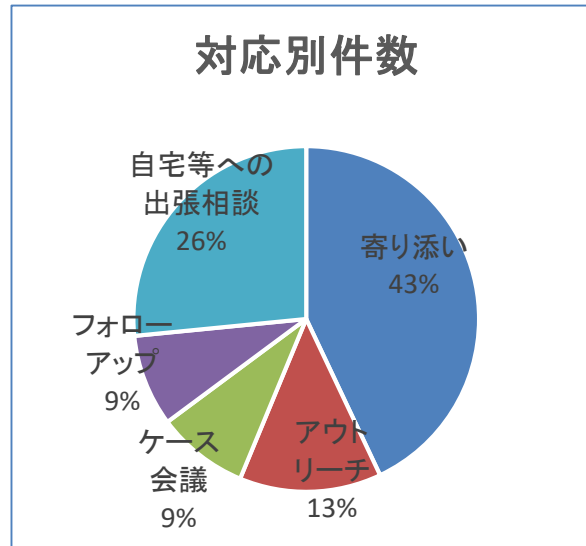
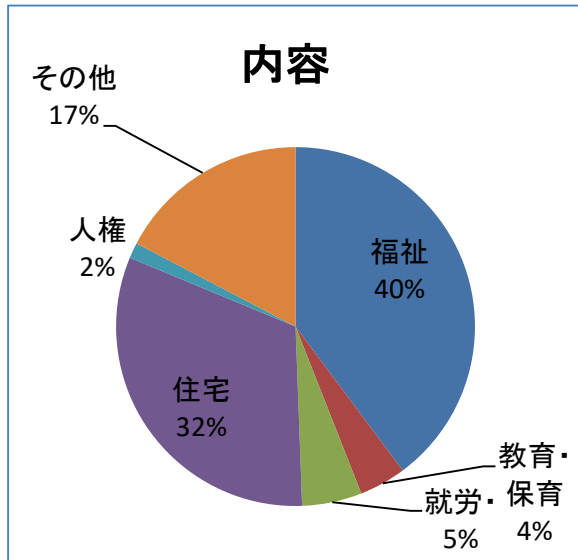
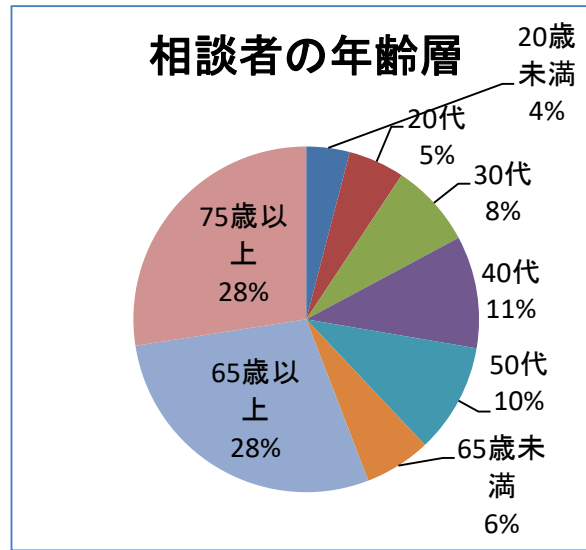
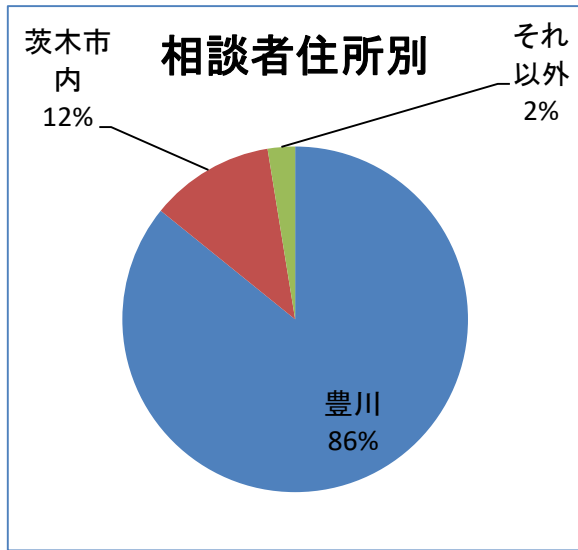
また特に、平日の昼間など相談することができない相談者等への対応として、土曜日および夜間（随時）に、相談担当者を配置して、相談支援対応を行いました。

- 相談日時：月～土曜日 9：00～17：00
*夜間（17：00～20：00）相談は随時受付

<相談件数（内容別）>

	福祉健康	住宅	教育保育	就職就労	人権	その他	計
H26	256	122	36	87	3	100	604
H27	239	141	23	55	5	145	608
H28	248	104	29	42	5	88	516
H29	232	102	26	43	5	95	503
H30	170	136	18	23	6	74	427

(2) 平成30年度 相談件数等集約について



次なる茨木へ。
茨木には、次がある。

(3) 支援方策検討会（豊川小学校区見守り支援ネットワーク会議）

センターにおいて実施する相談事業の対象者のうち、長期的、継続的な助言指導を必要とする者に対する支援を図るため、支援方策検討会を設置しています。その名称を「豊川小学校区見守り支援ネットワーク会議」とし、偶数月第4水曜日の午前中、活発な意見交換を行うことを目的に、小会議と大会議の2部構成で行っています。

【主な検討事例】

- 1 地震発生後9日目に実施。被災の状況や支援情報等について情報共有、情報交換の機会とした。要配慮者の安否確認名簿の必要性、民生委員一人でのエリアの安否確認を行うことのしんどさ等について共有。
- 2 みなし仮設住宅で市営住宅への入居について、慣れない地域で孤立しないよう建築課と連携。センターが相談できる場所、立ち寄れる居場所であることを情報共有。住所を動かさずに引っ越されている方についても、敬老会等の案内等について、担当課に確認の上、後日共有。
- 3 今後の災害に備えて、自主防災会の必要性について意見交換。特に要配慮者に対しての支援に関して検討。
- 4 小学校区において高齢者の居場所がない、月1回のサロンもないことについて意見交換。既に活動している居場所の見学、当該地域に見合った居場所について検討。



次なる
茨木へ。

(4) 課題及び今後の方向性等について

(課題等)

- 介護が必要な高齢者の多くは、介護保険のデイサービス等を利用しているが、元気な高齢者の「居場所」がない。
- 道祖本地区では、福祉委員会実施の「サロン」が実施されておらず、安否確認ができていない。
- 災害時の避難等に課題がある。特に要配慮者。
- 大阪北部地震及び台風21号等による被害が多く、まだまだブルーシートを掛けている家屋も多い。
- 豊川小学校区には、自主防災組織がない。

(成果、方向性等)

- 「居場所」がない高齢者のため、他の地区の「施設見学」に行き、豊川地区で実施検討を深めた。
- 地域の福祉委員会等と連携し、高齢者の「居場所」等も設置に取り組む必要がある。
- 「見守り支援ネットワーク会議」の枠組みの中で、『みんなの防災訓練』と題して防災訓練に取り組んだ。

(「みんなの防災訓練」について)

- 支援の必要な方を中心に、自宅からあいセンターまでの避難を想定。
- 事前に、心配事や支援方法等について、当事者とその家族、地域住民が共有・話し合い、作戦を立てた。
- 作戦どおりに、避難訓練を行った。(2事例)
- まさかのときの最良の備えは、日常からの関係づくりであることを共有。
- 話し合い・訓練の中での気づきが多く、豊川の各地区において取組を広げていく事が今後重要。

